

教科目名	思想と文化	担当教員名	
対象学科	エコデザイン工学専攻	宮崎 真矢	
学年	2年	この授業の単位種別・1単位の内訳	
開講期	前期	( )履修単位	(○)学修単位
必選区分	選択	90分授業 × 15回	(15)時間授業 + (30)時間家庭学習
単位数	2単位		
授業の形態、手法	講義(100%)、授業形態A(教員→学生)70%・B(教員↔学生)30%、教育手法1(普通の授業)・3(探求に基づいた発見学習)		
授業の実施体制	教員単独		
キーワード	リベラルアーツ、授業内容上のキーワード(信仰と文化、究極的関心、脱自、偶像信仰、神的—魔的、勇気・冒険)		
育成する社会人基礎力	文化の観点から問題点を認識する能力、情報収集・活用力		
<p>学習目標(授業の狙い)  諸々の思想や文化の形成や変遷を理解するには、それらを産み出す人間が究極的に何を問題とし何を求めているかを見るのが役に立ちます。授業では、「究極的関心」という概念を用いながら、キリスト教などの宗教的な思想・文化、ナショナリズムなどの非宗教的な思想・文化を、人間の究極的関心の表現として読み解くことを試みます。「究極的関心」という作業仮説を用いて、人々の物の考え方や営みの基底にある心性がどのようなものかを解釈できるようになることが、この授業のねらいです。</p>			
【学習・教育目標】	JABEE基準C-1(幸福・福祉や豊かさなどの多面的な概念を認識し、事故を確立することができる)B-2(自分とは異なった文化圏から来ている人々と交流し、他者・他国の立場にたって物事を考えることができる)		
【関連科目】	哲学Ⅰ、哲学Ⅱ		
【教科書】教科書	教科書は使用しません。レジュメおよび参考資料を配布します。		
【教科書】関連図書	Paul Tillich, "Dynamics of Faith" (Harper & Row Publishers, 1957)など		
【履修上の注意等】 【備考】	宗教や信仰といった話題を取り扱いますが、決して特定宗教の宣伝を行ったりするものではありません。いかに目をつむろうとしても私たちの身の回りに信仰という人間の営みが存在する以上、それを頭から拒否するのでもなく、それに無批判に取り込まれるのでもなく、この営みを自らの知性によって考えていくための手がかりを、授業での議論を通して見つけてもらえればと考えています。なお授業計画は、学生の理解度に応じて変更する場合があります。		
【科目の達成目標】	【評価方法と基準】		
○「究極的関心」としての「信仰」の動的なあり様を、具体的な宗教現象・文化現象の事例の考察を通して理解できる。 ○「究極的関心」の概念を作業仮説として用いて、自分が任意に選んだ宗教的あるいは非宗教的な思想、行動、信条などの文化現象に内在する「究極的関心」を読み解き、その構造を分析できる。	前期末レポートによって評価する。(100%)		

授業項目	授業内容
1回 現代日本の知識人の信仰理解	森岡正博『宗教なき時代を生きるために』を手がかりに、現代日本人の一般的な信仰観を理解する。
2回 究極的な関心としての信仰	森岡の示す一般的な信仰観と対比しながら、ティリッヒの「究極的関心」としての信仰という考え方を理解する。
3回 究極的な関心としての信仰—ナショナリズムの場合	「究極的関心」の概念をナショナリズムの例を通して理解する。
4回 究極的な関心としての信仰—旧約聖書の場合	「究極的関心」の概念を旧約聖書の宗教の例を通して理解する。
5回 人間の心理構造における信仰の位置:フロイト説との比較	フロイトの無意識説とティリッヒの考える信仰との関連と違いを考察する。
6回 人間の心理構造における信仰の位置:ユング説との比較	ユングの無意識説とティリッヒの考える信仰との関連と違いを考察する。
7回 人間の心理構造における信仰の位置	人格の全体の働き、中心の働き、脱自といった信仰の特性を理解する。
8回 信仰の源:非存在の脅威と生への欲望	非存在の脅威にさらされる人間の実存の中に究極的関心を生み出す原動力があるとするティリッヒの主張を考察する。
9回 信仰の源:「究極」との出会い、脱自、偶像信仰	非存在の脅威や生への欲望という人間的基盤の上で「究極的関心・関わり」がどのように生じ、どのように変容するかを考察する。
10回 信仰の対象:聖なるもの	信仰の対象が創造的・破壊的、神的・魔的の両面性を持つことを、宗教史の材料に照らして理解する。
11回 信仰の対象:聖なるもの	宗教の歴史の変遷を魔的なものと神的なものとの闘争史という観点から理解する。
12回 信仰と疑い	「究極的関心」としての信仰に潜む「疑い」「冒険」「勇気」の要素について理解する。
13回 信仰の動態	これまで考察した「究極的関心」としての信仰の諸構成要素の理解をふまえ、信仰の動態構造の特質を考察する。
14回 事例分析:イエスの究極的関心	田川建三『イエスという男』を手がかりに、新約聖書に登場するイエスの活動の特徴を理解する。
15回 事例分析:イエスの究極的関心	イエスの活動を「究極的関心」という作業仮説を用いて解釈する。
期末試験	実施しない。期末レポートによって評価する。

教科目名	ビジネス会計論	担当教員名	
対象学科	国際ビジネス学専攻	塩見 浩介	
学年	2年	この授業の単位種別・1単位の内訳	
開講期	前期	( )履修単位	(○)学修単位
必選区分	選択	90分授業 × 15回	(15)時間授業 + (30)時間家庭学習
単位数	2単位		
授業の形態、手法	講義(座学)と演習(実践)。		
授業の実施体制	教員単独。		
キーワード	戦略管理会計, 経営分析。		
育成する社会人基礎力	決算書関連情報の基本についての理解力。 企業における儲けを発生させる構造の基本についての分析力。		
<b>学習目標(授業の狙い)</b> これまで学んだ経営学や会計学に関する知識を基に, 実践的なビジネスにおける会計について学習する。			
【学習・教育目標】			
【関連科目】	なし		
【教科書】教科書	特に指定しない。		
【教科書】関連図書	ケースに応じて適宜提示する。		
【履修上の注意等】 【備考】	教科書は指定しない。適宜プリントを配布する。 評価が60点に満たない者は、願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者にとっては、その評価を60点とする。評価方法および評価基準は本試験に準じる。		
【科目の達成目標】	【評価方法と基準】		
企業における会計情報の基礎を分析出来る様になる。	レポート40%, 報告内容40%, 授業態度20%(積極的な発言を推奨)の合計点で評価する。		

授業項目	授業内容
1回 オリエンテーション	本講義の進め方について説明する。
2回 ビジネス会計の基本Ⅰ	これまでの復習とB/Sの基本。
3回 ビジネス会計の基本Ⅱ	これまでの復習とP/Lの基本。
4回 ビジネス会計の基本Ⅲ	これまでの復習とC/Sの基本。
5回 ビジネス事例(1)報告	ビジネス事例(1)の報告を行う。
6回 ビジネス事例(1)議論	ビジネス事例(1)の報告内容について議論を行う。
7回 ビジネス事例(2)報告	ビジネス事例(2)の報告を行う。
8回 ビジネス事例(2)議論	ビジネス事例(2)の報告内容について議論を行う。
9回 ビジネス事例(3)報告	ビジネス事例(3)の報告を行う。
10回 ビジネス事例(3)議論	ビジネス事例(3)の報告内容について議論を行う。
11回 ビジネス事例(4)報告	ビジネス事例(4)の報告を行う。
12回 ビジネス事例(4)議論	ビジネス事例(4)の報告内容について議論を行う。
13回 ビジネス事例(5)報告	ビジネス事例(5)の報告を行う。
14回 ビジネス事例(5)議論	ビジネス事例(5)の報告内容について議論を行う。
15回 まとめ	ビジネス会計についての事例報告についてまとめて議論する。
期末試験	1回から15回までの講義内容に関するレポートを作成する。